

松江キャンパス ニュース

The University of
Shimane Junior College

2016
vol. 9

公開講座

TOPICS

四大化へ方針決定

キラキラドリームプロジェクト 他

特集 学生による特色ある授業紹介



学生による 特色ある授業紹介

松江キャンパスには、健康栄養学科、保育学科、総合文化学科の3つの学科があり、学生たちはそれぞれの専門領域で特色のある授業を通して色々なことを学んでいます。今回は、そのうちのいくつかを学生がご紹介します。



「保育内容言葉Ⅰ・Ⅱ」

保育学科1年 三島 愛莉紗

保育内容言葉Ⅰ・Ⅱの授業では、子どもの言葉の育ちを保育者との関わりや日常生活、絵本などの児童文化財から学んでいきます。具体的には、遊んでいる子どもにどのような言葉がけや援助をするのかといったことや、実体験から言葉を育む保育環境について考え、また利き手ではない方で文字を書いてみて書くことの難しさを感じ、幼児期の書き言葉について考えていくこともあります。また、実際に絵本を手にとって絵本に親しみグループ発表を行うことで言葉についての理解をより深めていく活動もあります。私はこの授業から、子ども自身が言葉に興味を持ち、言葉の育ちを促すような環境を作ることが保育者の役割であると感じました。難しい内容ではありますが、グループ活動の中で他の学生の意見が聞けるので様々な視点から学んでいくことができます。また、先生が世界の変った絵本を沢山紹介して下さるので楽しく学ぶことができます。



「美術工芸B」

保育学科2年 古川 美雨

美術工芸Bでは様々な製作活動を行います。中でも廃材を使った物作りが印象に残っています。1つは、立体的な紙お面作りです。このお面は、キャラクターの顔や、頭の上の部分や、後頭部や、側面も全て再現します。作る時には、紙袋の周りに丸めた新聞紙を貼り付けて、キャラクターの丸みを付けていったり、外側を色画用紙で仕上げたりします。紙袋は丈夫で、周りに新聞紙をたくさん付けても重みに負けることなく中の頭の入る空間ができました。また新聞紙は手で簡単にちぎることができ、自由な形を作りやすく、軽くて量もたくさんあるため、このお面作りに最適な廃材でした。2つめは、キャンドル作りです。ペットボトルに粘土を付け、色付けをして仕上げます。粘土を付けやすくするために水を使って柔らかくして、手触りを楽しむこともできました。ライトを灯すと、粘土が付いていない透明な部分から光が見えてとても綺麗な仕上がりになりました。この授業では製作を通して廃材の特徴を知ることができ、また作る楽しさを感じることができたため、来春から保育現場で働く私にとって、とても役に立つ体験でした。



「文化情報誌制作Ⅱ」

総合文化学科2年 石飛 晴菜

「文化情報誌制作Ⅱ」は、総合文化学科で発行している文化情報誌「のんびり雲」を制作する授業です。「のんびり雲」は、企画から取材、誌面レイアウトまですべて学生の手で作られています。編集作業では大変なこともありましたが、その分完成したときにはとても大きな達成感を感じました。

この授業の一番の魅力は、たくさんの経験をして成長できることだと思います。編集部員のみんなで山陰の小さな文化を探し、様々な場所に取材に出かけます。私はふるさとの多伎町の海で食材を探しました。小さな文化とともにたくさんの人の笑顔と出会うことができました。山陰に住んでいても、知らなかった場所や普段は行けないような場所にも行くことができ、たくさんの貴重な経験をすることが出来ました。そして、それは、学生時代の大切な思い出の一つにもなりました。

自分たちが一生懸命作った「のんびり雲」で、山陰の魅力を発信することができる！文化資源学系ならではのとても素敵な授業ですよ。



「英会話A」

総合文化学科1年 植山 莉耶舞

「英会話A」では、日常生活で使うような英語で文をつくったり、ペアになって会話したり、英語を使ってゲームをしたりなど、楽しい体験の中で英語を使います。また、外国の学生との交流の機会も設けられています。例えば例年5月には、アメリカの南ユタ大学から、20人ほどの学生たちが来学して交流しますが、今年(27年)も、一緒にトークしたり、ドッジボールをしたりして楽しい体験になりました。英語を使って話すのは、最初少し恥ずかしかったりしますが、みんなで楽しくやりとりをしながら話すと気軽に使えるようになって、とっても「クール」です。この授業では、英語の能力も上がり、英語を使って話すのがとても楽しくなります。将来の後輩!?のみなさんにも、ぜひ受けてもらいたい授業です。



「キッズ・イングリッシュ」

総合文化学科2年 山尾 紗矢

「キッズ・イングリッシュ」は、小さな子供たちに向けて英語の絵本や紙芝居の読み聞かせをしたり、英語の歌を歌ったりして、遊びを通して英語に触れてもらう授業です。松江キャンパスの近くにある乃木小学校や、学内にあるおはなしレストランライブラリーで実践を行っています。また、松江キャンパスの大学祭(飛鳥祭)でも活動しています。この授業のいいところ、特色は、小さな子供たちへの読み聞かせを通して、伝統的なものから現代的なものまで、英語の歌やお話を覚えることができ、担当の先生方による英語の発音指導なども受けながら、子供たちだけでなく、学生たちも楽しんで英語力を向上させることができるところです。また、子どもたちが初めて英語に触れる機会に携われることにやりがいを感じます。



「解剖組織学実験」「調理実習」

健康栄養学科1年 石本 あかり

私が一番印象に残っている授業は、解剖組織学実験と調理実習です。解剖組織学実験は、マウスの解剖を通して体の仕組みを知ることが目的とした授業で、とても衝撃的でしたが、そのおかげで難しい解剖学の理解を深めることができました。調理実習は、和洋中さまざまな料理に挑戦し、苦労することも多かったですが、回数を重ねるごとに調理技術の向上とともに、段取りよく調理することを学びました。この経験によって、物事を順序良く進める力が身に付いたと思います。

専門科目が多く学ぶべき内容も多いため、実業高校出身の私にとって入学当初は大変不安でした。しかし、先生方に気軽に質問し、また教え合える友人ができたことで、難しい内容もしっかりと身に付き、今では安心して授業に臨むことができます。栄養士になるためにはまだまだ勉強すべきことが沢山あります。どの分野も難易度は高いですが、卒業までの時間でできる限り知識を蓄えるために、これからも頑張ります。



「地域の特性と食材利用」

健康栄養学科2年 財前 有貴子

「地域の特性と食材利用」は、島根県の作物生産や生活・文化の地域特性等を学び、さらに加工食品、機能性食品について理解を深める授業です。この授業の特色としては、授業を通じて島根県についてもっと知ることができ、また、他県から来た人は自分の県と島根県との違いはどういった点があるか、という観点から授業を受けるととても興味深いです。逆に、島根県民の方も知っているようで知らないことや、当たり前だと思っていたことが、島根県ならではの存在を知ることができ、楽しいと思います。例えば、私はあご野焼きや板わかめの存在をこの授業で初めて知りました。また、宍道湖や中海は淡水と海水が混じりあった汽水湖であり、塩分は宍道湖は海水の約1/10である0.3~0.5%、中海は海水の約1/2である1.5~2.0%含まれているなど、知識が広がります。

この授業の利点は、島根県の特産品や料理、歴史等を知ることによって、島根県で働く際に献立作成に活かすことができたり、就職先での利用者さんと会話をする上での知識にも役立ちます。また、島根県で働かない人でも残りの学生生活の内に行っておきたい場所が見つかったりと、とてもオススメの授業です。

この授業を受け、私は島根県がさらに好きになり、もっと知っていきたく感じました。そのため、地元に戻る前までに授業で気になった地域に出向き、そこで特産品を食べたり地域の方と接する中で、島根県の良さをもっと知っていきたく考えています。そして地元に戻った際に、一人でも多くの方に島根県の良さについて広めていきたくと思います。



「地域探検学」

総合文化学科1年 安達 優華

この授業はたくさんのお会いがある素敵な授業です。夏休み中に行われる集中講義の1つで、奥出雲町で2泊3日の合宿を通して地域の魅力や課題を見つけます。木原村下から伺うたたら製鉄のお話をはじめ、農家を訪問して伝統的な生活文化のお話をお聞きし、地域の方たちをお招きして発表したり、郷土料理をみんなで作ったり、農業体験、そば打ち体験をしたりなど、いつもはできないような体験をたくさんしました。もちろん観光もしました。

食べ物もおいしく、自然も豊かで空気もきれい。このような奥出雲町で私が見つけた1番の奥出雲町の魅力は人々の温かさです。大学生を温かく受け入れ、もてなしてくださり、たくさんお話をしてくださいました。奥出雲町はとても素敵な地域でした。この集中講義でたくさんのお話を学びました。



「読み聞かせの実践」

総合文化学科2年 村口 麻由

この授業では、絵本の読み聞かせを通して地域の子もたちと交流します。私たち学生は、学内で絵本選びや準備を進め、幼保園のぎや乃木小学校へ出かけて行きます。そして、幼保園のぎでは学生同士でペアを組んで、絵本を読むだけでなく、手遊びやクイズなどを行い子どもたちと一緒に楽しい時間を過ごします。また、乃木小学校では、授業の始まる前に、朝の読み聞かせを行います。読み聞かせは、低学年だけではなく、高学年の児童にも行います。子どもたちの年齢層に合った絵本選びの難しさ、反応がダイレクトに伝わってくる実践の緊張感、充実感を与えてくれます。実践を通して、子どもたちを楽しませるためには、まず自分が楽しむことも重要だと実感しました。次々と新たな楽しさを見出していける読み聞かせは、その奥深さだけでなく、人の笑顔の大切さを教えてくれます。



「日本古典文学入門」「日本古典文学を歩く」「古文書を読む」

総合文化学科2年 安井 愛

私は日本史が好きなので、歴史が学べる授業を紹介します。それは「日本古典文学入門」と「日本古典文学を歩く」、そして「古文書を読む」です。歴史を学ぶということは、当時の人たちの暮らしや価値観を理解することだと思います。最初の2つの授業では、『古事記』と『出雲国風土記』に関する文献・物語の現代語訳を読み、テーマを決めて調査・発表することで、当時の文化や社会情勢といった背景を学び、舞台となっている松江・出雲の神社や遺跡、古墳などを訪れ、実体験として新たな発見ができ、理解を深めることができます。また歴史を調査・研究をしていると古文書に触れる機会も多くあります。そこで、くずし字について学ぶのが「古文書を読む」です。くずし字辞典を片手に古文書を読みます。だんだんと字の形を覚え、辞書を活用し、読むことができるようになって面白くなります。このように自分自身で歴史を探究する力をつけられます。

松江キャンパス 四大化へ方針決定



島根県立大学短期大学部副学長

岸本 強

今年度4月から副学長の任に就きました岸本強でございます。責任の重い職ではありませんが、教職員・学生と一緒に楽しむ昼休憩のリフレッシュ、通称「昼バド」でストレスを発散して職に臨んでいます。皆様の温かいご支援を賜りますようお願いいたします。

さて、松江キャンパスの最重要課題であります四年制化につきまして、今年度6月定例島根県議会で次のように方針決定がなされました。主な内容は、(1)3学科全ての四年制大学化、健康栄養学科を出雲キャンパスへ移転、(2)一部短大の存置(保育学科、総合文化学科の定員を縮小しての存置)、(3)開設時期は平成30年4月というものです。

これまでの道程は容易なものではありませんでした。平成24年度には松江キャンパスでの「あり方」検討、翌25年度には法人改革検討委員会での「あり方」検討をし、2年越しにまとめた「大学試案」を本田学長から知事へ提出できたのです。その後、県では有識者懇談会を開催し、「松江キャンパスのあり方に関する報告書」としてまとめ、上記県議会において県の方針が決定されたのでした。

現段階での案は、健康栄養学科は出雲キャンパスへ移転し、看護栄養学部として看護学科と2学科構成になり、保育、総合文化学科は定員を縮小して短大部を存置させ、同時に1学部2学科の四年制学部を設置するものです。

目下、期限の設けられている関係省庁への設置認可申請、養成課程認定申請にむけ、多種多様な課題を抱えながらも、一つずつ着実に作業を進めているところです。今年度から事務室に「新学部設置等準備室」が設置され、5名の精鋭が強力な推進役として指揮を執ってくださり頼もしい限りです。

「選ばれる公立大学へ」「役に立つ公立大学へ」「支援し続ける公立大学へ」の想いを胸に刻み、教職員一体となり、「チーム短大」として四年制新学部学科設置に邁進していきたいと思っています。関係の皆様のご強力なご力添えをよろしくお願いいたします。(12月記)



公開講座

「健康栄養講座：続 高齢者の食と健康」

健康栄養学科 准教授 籠橋有紀子

この講座では、昨年に引き続き、島根県の高齢者の健康について、現状と取り組みを紹介し、身体の変化に対応した食および健康づくりについて講義を行いました。

第1回の高齢化と島根の食では、高齢化による身体機能の変化、中でも口腔内環境についてお話ししました。講義の中で、島根県の食材を使った高齢者や家族一緒に楽しんでもらえるような調理品および食品について紹介し、実際に試食をしてもらいました。島根県産米のつや姫、きぬむすめ、こしひかりの食べ比べをしてもらったところ、「比べて食べる機会はなかったけれど、こうしてみると見た目や食感に違いがあることがわかる」「家でも同じ米ばかりでなく、いろいろと食べてみたいと思う」などの感想をいただき、島根の食材を活用してもらったきっかけづくりになった講座でした。



「案外知っているようで知らない「人」の話2」

保育学科 准教授 飯塚 由美

心理学のことをやさしく解説する入門編1の続編として開講しました。人の「行動」と「心理」を研究する「心理学」はどのようなものなのか、また、実際、何を研究しているのかなど、多様な領域をかかえる現代心理学をわかりやすく紹介する講座です。今年の講座では、特に、人との関わりや集団をテーマに、第1回は、私たちの住んでいる社会って？

—自分の世界は人と同じ世界なのか、第2回は、仲間、グループ、コミュニケーション、第3回は、人との関わりどうなってるの？—身近なことと心理学、についてお話ししました。若手からシニアまでの受講生の方々が、メモをとりながら、また、質問等をされながら熱心に聴講され、こちらも楽しく勉強させていただきました。



「総合文化講座」

総合文化学科 准教授 工藤 泰子

平成27年度の「総合文化講座」は、浜田キャンパスの村井洋教授、瓜生忠久教授、出雲キャンパスの橋本由里准教授にもご協力いただき、本学総合文化学科教員5名（岩田英作教授、小泉凡教授、藤居由香准教授、塩谷もも准教授、工藤）、計8名が、それぞれの専門の立場から幅広く「文化」に関する講義を行いました。

「昭和の東京オリンピックと観光教育」（工藤担当）では、近代観光史研究の立場から、2つの東京オリンピック（昭和39年の第18回東京大会と、昭和15年に開催が決定していたものの戦争により返上した「幻の東京オリンピック」）と、日本における観光教育機関の設立との関係についてお話ししました。

今年の「総合文化講座」は延べ291名の方に受講していただきました。来年度も引き続き開講しますので、よろしくお願いたします。

「子どもがいる家庭のための英語教育実践講座」

総合文化学科 准教授 ラング・クリス

この講座では、子どもが小さいうちから英語に親しませたいという方のために、家庭で実践できる英語教育という観点から講義をしました。私は、大学では第二言語習得という分野を専門に研究しており、自宅では2人の幼児に対して英語で子育てをしています。この経験を踏まえて、理論と実践の両面から3回に渡ってアプローチしました。

まず、子どもの言語習得の仕組みを研究データを交えてお話ししました。それから、言語能力を効果的にアップする方法として、家庭でできる英語環境作りを提案し、おすすめの教材・絵本の読み聞かせ法・手遊び・歌などを紹介しました。また、受講者同士で実際に絵本を使った実践や、お子さんに話しかける育児英語を練習していただきました。

楽しい言語環境を作ることによって、子どもは自然に英語を習得します。この講座では、そのための方法をいくつかご提案させていただきました。2017年度には同内容で開講の予定ですので、よろしくお願いたします。



|教|員|の|研|究|紹|介|



健康栄養学科 教授
酒元 誠治

酒元研究室では、科学的な根拠に基づく栄養学(EBN)の研究を実施しています。2015年は、高齢化社会における社会負担を軽減するために、Frailty(虚弱)、Sarcopenia(加齢による筋肉量の減少)、Locomotive Syndrome(高齢者の運動機能障害)といった介護にいたる状態を予防するための基礎データを得る研究を、浜田市との共同研究「浜田市高齢者健康・栄養調査」として実施しています。

具体的には、エネルギーの摂取側の調査として、デジタルカメラを使った栄養調査を、エネルギーの消費側は加速度式歩数計を使った運動量調査を、その結果として体組成がどのような状態にあるのかをInbody s-10 という体組成計を使った調査を実施しています。

ここでは、これまでに行ってきた研究成果として、身長が短縮して正確に測定することが出来ないため、正確なBMI(体重を身長²で除する、体格指数)を推計する方法としてふくらはぎ周囲長からのBMIを推計する方法を用いています。結果から科学的な介護予防の方法を見つけられれば、浜田市、島根県、日本にとって有意義な研究になりうると考えています。



保育学科 講師
梶間 奈保

私は作曲・音楽認知心理学を中心に研究を深めています。誰もが音楽に心弾ませ、音楽を楽しんで聞く瞬間があります。ですが、クラシック音楽だと「静かに聞かないと…」と敷居の高いイメージを持ったり、親子連れでのコンサートは周りの人を気にして躊躇してしまうなど、生身の音に耳を傾ける機会を制限してしまう方も多いのではないのでしょうか。

そういったことも含め、今年度は親子向けに生演奏で音の魅力や音楽の面白さを体感してもらう「音のレストラン」(コンサート)を実施いたしました。楽器から奏でられる音や音楽1つ1つに、クスリと笑ったり不思議に思ったり、そして自然と身体が揺れ動いたりと全身で音楽を受け止めている様子を見ることができ非常に嬉しく思いました。現在は、音楽を聴くよりも、音楽に付随するアーティストや視覚的情報を意識してしまう世の中です。本当の音楽の面白さは音を聴くことから出発します。音楽を聴いて楽しみ、そして生の音を身体で体感することで芽生える音楽の面白さ、その元となる種をこれからもまき続けていければと思います。



総合文化学科 准教授
塩谷 もも

「文化人類学の研究」という自己紹介をすると、それって何?と返されることが多いです。そのため、「インドネシアの文化研究」と省略してしまうこともあります。文化人類学の「文化」は非常に広く、人に関わるあらゆることが含まれます。そのため、自分の関心と調査地の状況にあわせて、様々な事を研究できるのが魅力です。

私がまず関心を持ったテーマは、「ジャワの食」でした。そこから「儀礼食を通じた近隣社会のつながりと女性」→「近代化とイスラムによる儀礼変化」→「ベールとイスラム服の拡大」→「イスラム服とバティック布の現代的な展開」と、これらを研究テーマにしてみました。

そして、もう一つの面白さは、フィールドワークに重点を置いた研究であることです。調査地との出会いは、偶然によるものが多いのですが、私の場合は、大学時代、民族音楽に関心を持ち、訪れたインドネシアになりました。行くとたびに会う新たな現象とわかあがる疑問、聞き取り調査や観察から何かを見つけた!と思える瞬間、これらを求めてジャワに通いつづけています。



総合文化学科 講師
杉 岳志

彗星が一定の軌道上を周回する天体であることを、皆さんはご存知だと思います。しかし、そうした見方が一般的になったのは、200年ほど前のことに過ぎません。それまでは、彗星は天の異変、すなわち天変に他なりません。

江戸時代の日本では、様々な彗星の見方がありました。主なものを列挙すれば、次の通りです。①彗星は凶事の前兆である。②彗星は前兆ではなく、世の中の出来事とは無関係である。③彗星は悪政を敷く為政者に対する天の警告である。④彗星は星ではなく、気が上昇して発光したものである。⑤彗星とは別の「稲星」という豊作をもたらす星である。

残された史料から判断する限り、生類憐みの令で有名な徳川綱吉は、①と③の見方を取っていたようです。彗星を天の警告と受け止めていたとすれば、彼の政治は彗星に左右されたこととなります。

江戸時代の人々と彗星の関係について、これまで注目されることはほとんどありませんでした。しかし彗星に対する人々の反応を読み解いていくと、これまでとは異なる江戸時代の姿が見えてきます。



学生のヒラメキが、地域のキラメキに変わる 夢プランコンテスト キラキラドリームプロジェクト

平成25年度から始まった「キラキラドリームプロジェクト」は、学生が提案する夢プランに対して大学が費用を補助することで、そのプランの実現を応援しています。地域・企業の方々を支えていただきながら活動をしています。

プレゼンテーションでつかむ、活動資金

ドリーム枠 30万円以下×1件

キラキラ枠 10万円以下×2件程度

※エントリー時に、どちらの枠を狙うか指定します



公開審査会の様子

平成27年度の採択団体

7月の公開審査会を経て4組の団体が採択されました。2月の報告会まで活動をおこないます。

ドリーム枠



ゴーストみやげ研究所

小泉八雲ゆかりの怪談にまつわるおみやげを作るプロジェクトです。昨年度は企業とのコラボレーションで「ほういちの耳まんぢう」を作りました。今年度も、「小泉八雲」を知ってもらうための商品を作り、「怪談」＝「小泉八雲」＝「松江」をより定着させたいという想いで活動をしています。

キラキラ枠



革命短大生～国際ライフサポートプロジェクト

松江に住む外国人の方々に、少しでも安心して過ごしてもらいたいという想いで、行政のサポートが届きにくい部分を補うように、防災教育や交流事業を実施します。日本語が不慣れな方々には、英語文化系での学びを活かして、英語で分かり易く説明をします。

キラキラ枠



松江市感幸隊(まつえしかんこうたい)

照明・光を使ったアートで、夜の松江の観光活性化を図ります。松江の観光にプラスαの企画を提案し、若い年齢層を対象に「ふらっと立ち寄り」観光のきっかけ作りを考えています。

キラキラ枠



しまね三昧食品科学研究所

近年、全国的にイノシシやシカの捕獲数が増加しています。しかし、その捕獲されたものの1割程度しか食肉用として流通していない現状を知り、もっと有効利用できないかと考えました。そこで、健康栄養学科の学びを活かし、もっと美味しく食べてもらえるジビエの商品開発をおこなうことにしています。

詳しくはホームページで紹介しています。 <http://matsuec.u-shimane.ac.jp/campus/kirakiradream/>

SCHEDULE

平成28年度年間行事予定

* 予定変更の可能性もありますので事前にご確認ください。



CAMPUS LIFE

海外語学研修

木本陽奈子 (総合文化学科1年)

私たちは夏休みにワシントン州のエレンズバーグという町にあるセントラルワシントン大学 (CWU) で、19日間の研修を行いました。今年がCWUと島根県立大学短期大学部松江キャンパスの交流が25周年になる記念の年でもありました。主な活動は、大学でcultureとlanguageの授業を受けてそのほかは様々な活動をしました。例えば、川下りやハイキングをしてアメリカの広大な景色を直に感じたり、博物館訪問や街の散策などで日本と違った歴史や文化を学べるなど、どれも貴重な体験ばかりでした。

最初の方は発言することに恥ずかしさがあり、自分の意見を飲み込んでしまうことが多かったのですが、授業をしてくれる先生や同年代の子たちが自分の意見を堂々と発言している姿をみて、私も自然に発言することができるようになりました。この研修で多くのことを経験し学んで、自分自身も成長することができました。このプログラムに関わって手助けしてくれた多くの皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。



サークル・クラブ紹介

・バドミントンサークル (総合文化学科 2年) 森井 翼

バドミントンサークルは、毎週火曜日の週一度、体育館アリーナで活動しています。

サークルメンバーの中には、経験者もいれば、大学に入ってから始めた初心者もいます。

活動内容としては、ペアを組んでのダブルスやシングルスなどのゲームを中心に活動しています。

ラケットなどの備品は学校の物を使えるので、気軽に始めることができます。

バドミントンというスポーツは、経験者はもちろん、初心者でも楽しめるスポーツだと思います。また、実際にやってみると分かるのですが、シャトルを飛ばした時の音やスマッシュやヘアピンなどの様々なショットも迫力があります。

和気あいあいとした雰囲気で行っています！少しでも、興味を持った人や、やってみたいと思う人はぜひ参加してみてください。



・ボランティアサークル "volcano" (総合文化学科2年) 田中優美

こんにちは！ボルケーノです。私たちは、名前の通りボランティア活動を主な活動としています。活動には、りんご園での摘果作業、夏祭りの運営補助、幼保園での運動会補助など様々なものがあります。みんなで同じ活動をし、一緒に汗を流すことで学生同士の交流もぐんぐん深まります。

しかし、ここのサークルではボランティア活動だけでなくもう一つ大切にしている活動があります。それは、短大のある浜乃木七丁目の国尾自治会の方々との交流活動です。この活動は、地域の方との交流を通して地域内ネットワークを強めるということを目的に始められたものです。今年の1月に行われた「とんどさん」を皮切りに、地域の方に教わりながら宍道湖沿いでハゼ釣りをしたり、地元の特産物を賭けたグランドゴルフも行いました。今後も楽しい交流を通して、地域の方と繋がっていかれたらと思います。



飛鳥祭 (大学祭)



島根県立大学短期大学部
松江キャンパス

〒690-0044 島根県松江市浜乃木七丁目24番2号

TEL 0852-26-5525 FAX 0852-21-8150

■ 発行：島根県立大学短期大学部松江キャンパス メディア・図書館委員会

■ 発行日：2016年3月17日

◎ 表紙写真：保育学科 准教授 福井 一尊